報道関係者各位

2024 年 7 月吉日
六本木アートナイト実行委員会

都市とアートとミライのお祭り
「六本木アートナイト2024」開催決定

日程：2024年9月27日（金）～29日（日）

新プログラム「RAN Picks」と「RAN Focus」を新設！
約30組のアーティストが繰り広げる約40のプログラム
芸術が息づく六本木で新たな感動を

六本木アートナイト実行委員会は、2024年9月27日(金)から29日(日)までの3日間にわたり、六本木の街を舞台に「都市とアートとミライのお祭り」をテーマにした「六本木アートナイト2024」を開催します。

2009年の開始から13回目※となる今回より、新たな試みとして「RAN Picks」と「RAN Focus」を新設します。「RAN Picks」では、六本木アートナイトが注目するアーティストを複数選出し展示するプログラムを展開。「RAN Focus」では、特定の国や地域にフォーカスを当て、そこで活躍するアーティストによるプログラムを披露します。**今回の「RAN Focus」は、台湾のアーティストにフォーカスします。**

さらに、過去の六本木アートナイト参加アーティストが再出展するプログラムなども登場します。そして例年通り、美術館をはじめとする文化施設や大型複合施設、商店街が集積する六本木の街全域をフィールドに、インスタレーションやパフォーマンス、音楽、映像、トーク、デジタル作品など、約30組のアーティストによる約40のプログラムを繰り広げます。

時代の変化や価値観の変化とともに新たな楽しみ方を提示し、社会に於けるアートの更なる可能性を発信します。この秋、多様な文化と創造性が交錯する「六本木アートナイト2024」をお楽しみください。

※2011 年は東日本大震災、2020 年・2021 年はコロナ禍により中止

■ 六本木アートナイト2024 開催に向けて

撮影：伊藤彰紀

六本木の街を舞台に繰り広げられるアートの祭典「六本木アートナイト」を、2024年は9月に開催します。コロナ禍を経て、ライフスタイルや社会的価値観に変化もみられるなか、13回目を迎える今年の「六本木アートナイト」では持続性と新しい世代への浸透を視野に入れ、新たな枠組みやシリーズを試みます。また、創設以来のコンセプトを恒常的なテーマ「都市とアートとミライのお祭り」として改めて提示し、よりグローバルな新しい夜型イベントとして「六本木アートナイト」の進化形を考えます。

参加アーティストも、メインアーティストを中心に構成してきたこれまでの形から、「六本木アートナイト」が注目する国内外のアーティスト6組を、「RAN Picks」として六本木ヒルズ、国立新美術館、東京ミッドタウンなど各所で展示するモデルに変わります。また、開催回ごとにさまざまな国や地域のアートに注目する「RAN Focus」を新設。今年は台湾のアートにフォーカスします。その他、オープニングのパフォーマンス、トークプログラム、過去の「六本木アートナイト」で人気の高かった作品のアンコール参加、地域の方々が参加するコミュニティプロジェクトなど、ますます充実したコンテンツをお届けします。「六本木アートナイト2024」、どうぞご期待ください。

六本木アートナイト実行委員長
片岡真実（森美術館館長）

東京都　ARTS COUNCIL TOKYO　MINATO CITY

■ RAN Picks/RAN Focus｜アーティスト紹介

RAN Picks

アトリエ シス（ATELIER SISU）

ATELIER SISUは、ペルー人彫刻家レンゾ・B・ラリヴィエールとオーストラリア人アーティストのザラ・パスフィールドが率いる、シドニーを拠点とする受賞歴のあるアートスタジオです。2人は実験的な環境、インスタレーション、ユニークな彫刻作品を制作しています。彼らの仕事の方向性は、アートと建築（アート・キテクチャー）の分野の間で、特にパブリック アートの領域に重点を置いています。

●展示場所：六本木ヒルズアリーナ

RAN Picks

撮影：アンドレア・スピデル

ジェニファー・ウェン・マ

1973年北京生まれ。現在、北京とニューヨーク在住。1999年にニューヨーク州プラット・インスティチュートにて美術の修士を取得。インスタレーション、ドローイング、デザインなどジャンルを横断して制作を行っており、シンガポール・ビエンナーレ（2006年）、ユーレンス現代芸術センター（北京、2012年）、メトロポリタン美術館（ニューヨーク、2015年）など、数多くの展覧会やビエンナーレで作品を展示しています。

●展示場所：国立新美術館 1階アトリウム

RAN Picks

髙橋匡太

1970年京都生まれ、同地在住。京都市芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。光や映像を用いた公共空間でのインスタレーションからパフォーマンスまで幅広い活動を国内外で実施。東京駅100周年記念ライトアップや十和田市現代美術館など光と建築を組み合わせた大規模なプロジェクトや、多くの人とともに作る《ひかりの実》、《ひかりの花畑》などの参加型アートプロジェクトも数多く手がけています。

●実施場所：国立新美術館、東京ミッドタウン、六本木ヒルズアリーナ、六本木各地

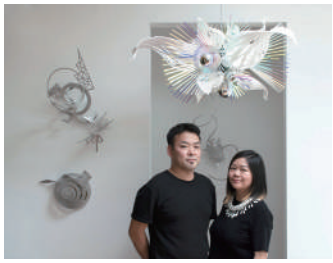
RAN Picks/RAN Focus

チェン・プー（陳普）

台湾出身、同地在住。形態学や生物考古学の視点を結び付け、絵画を創作の起点としながらもデジタル・メディアを駆使した多様な作品を制作しています。インクやペンを用いて描いたイメージを、2Dや3Dアニメーション、AR、NFT、インスタレーション、ワークショップなどに発展させることで、仮想と現実世界をつないでいます。アムステルダム市立美術館をはじめ、パリ、ハンブルグ、広州、台北など世界各地で作品を展示。

●展示場所：東京ミッドタウン プラザ1階

RAN Picks/RAN Focus



ツァイ&ヨシカワ

台湾出身の蔡筱淇（ツァイ・シャオチー）と日本出身の吉川公野、ロンドン在住のアーティストデュオ。英国のロイヤルカレッジオブアートにて、蔡筱淇はテキスタイルを、吉川公野は彫刻を学ぶ。自然界の持つダイナミックなエネルギーや驚くべき存在に目を向け、サイトスペシックで幻想的な彫刻とインスタレーションを生み出し、アジア、ヨーロッパ各地で、屋内外を異空間に変えオーディエンスを魅了し続けています。

●展示場所：六本木ヒルズ ウエストウォーク2階

■ RAN Picks/RAN Focus｜アーティスト紹介

RAN Picks/RAN Focus

メイメージダンス《沈黙の島―新たなる楽園―》2022年
撮影：リュウ・チェンシャン（劉振祥）

メイメージダンス

2010年に振付師ホ・シャオメイ（1963年台湾生まれ）によって設立された現代舞踊団で、《灰からの復興》（2018-2019）や今回上演される《沈黙の島―新たなる楽園―》（2017）など、力強いビジュアルと文化的要素を用いるスタイルを特徴としています。公演に加え、海外に住む才能豊かな台湾出身の振付家に台湾での作品発表や制作の機会を与える後進育成のプロジェクトも実施しています。

●展示場所：六本木ヒルズアリーナ

RAN Focus

《ウォーターメロン・ラブ》2017年
ビデオ 10分22秒

ウォーターメロン・シスターズ（西瓜姉妹）

ユ・チェンタ（余政達、1983年台湾、台南生まれ）とミン・ウォン（1971年シンガポール生まれ）は、2017年にウォーターメロン・シスターズ（西瓜姉妹）としてコラボレーションを開始。1960年代の京劇映画やツァイ・ミンリャン（蔡明亮）の映画作品からインスピレーションを受け、自らの性自認を流動化させ、クィア姉妹として人間の性的解放への道をダンスで応援すべく、パフォーマンスや映像作品制作を行っています。

●展示場所：イグノポール1階（展示）／六本木ヒルズアリーナ（パフォーマンス）

RAN Focus

画像提供：台北市立美術館

ユェン・グァンミン（袁廣鳴）

1965年台北生まれ、同地在住。台湾のビデオ・アートのパイオニアで、自作の撮影装置などを用いて映像芸術の可能性を刷新し、作品では人類が直面する諸問題を詩的に表現します。台北ビエンナーレ（1996年、1998年、2002年）、ベネチア・ビエンナーレ台湾館（2003年、2024年）、あいちトリエンナーレ2019などに参加しています。現在、国立台北芸術大学ニューメディアアート学部教授。

●展示場所：ジオットハウス1階

■ エリア横断プログラム

《花のロンド》2018年
撮影：村上美都

髙橋匡太《ポンギリング ―ひかりの花のパレード―》（仮） RAN Picks

多数の人々が光る花型のうきわを身に着け、国立新美術館から東京ミッドタウンを通過し、六本木を練り歩きます。パフォーマーによる語りや音楽に導かれた参加者たちが歩を進めるごとに、うきわはLEDライトにより鮮やかに色を変えていき、六本木ヒルズアリーナでフィナーレを迎えます。都会の雑多な夜景を幻想的な光景へと一変させる一夜限りのパレードです。
※パレードへの参加は事前申込制です。

●日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
●実施場所：国立新美術館、東京ミッドタウン、六本木ヒルズアリーナ、六本木各地
●参加料：無料

スイッチ総研《六本木アートナイトスイッチ2024》 パフォーマンス

【作】スイッチ総研　【脚本／演出】光瀬指絵
“六本木アートナイト史上最も敷居の低い芸術”を標榜し参戦した2015年から約10年。敷居をさらに引き下げるべく、スイッチ総研5度目の見参!!敷居は低く志は高く!新作上演!あの狂騒、いや祝祭空間が再び六本木に!!「スイッチを押すと始まる一瞬の演劇」を六本木の街のあちこちに設置。場の個性を取り込んだサイトスペシフィックな一瞬の演劇が、同時多発で展開するクレイジーかつピースフルな体験型作品。スイッチを押して物語を始めるのはあなたです!!

●日時：9/27(金)～9/29(日) 時間はウェブサイトにて掲載予定
●場所：六本木ヒルズ ノースタワー前、檜町公園、東京ミッドタウン（予定）
●参加料：無料

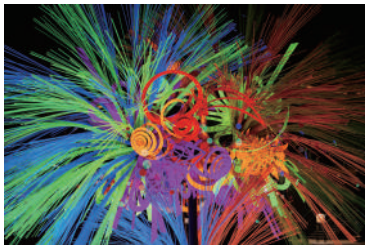
■ エリア別プログラム紹介｜六本木ヒルズ

アトリエ シス（ATELIER SISU）《エフェメラル コレクション》

RAN Picks

エフェメラル コレクションは、光と音の没入型の作品で、泡という視覚的形態を通じて儚さと無常の概念を捉えています。泡の壊れやすさは、日常の小さな部分を感謝し、その瞬間を生きる必要性を思い出させてくれます。色を反射する素材で構築されており、観客は昼と夜で異なる方法でこのアート作品を体験することができます。

●日時：9/27(金) 17:30～23:00、9/28(土) 13:00～23:00、9/29(日) 13:00～20:00（予定）
●場所：六本木ヒルズアリーナ
●参加料：無料



《豊穣の宝石-Daydream_1&2 Light, Wind and Dreams_3》

ツァイ＆ヨシカワ《豊穣の宝石 – Reflection》

RAN Picks/RAN Focus　長期展示プログラム

ツァイ&ヨシカワは、地球上のすべての生命にとって不可欠な水、光、空気などのエネルギーを表現する彫刻を制作しています。蛍光塗料で塗装された奇妙な大輪のアルミニウムの花は、昼間は太陽光で色鮮やかに輝き、夜になるとブラックライトで眩く発光し、昼と夜の顔を持つ生命体を創り出します。まるでこの大都市に突如現れ、空間を別の次元へと導く神秘的な宝石のようです。「私たちの彫刻とアートインスタレーションは、光と空気の動きと相互作用する触媒であり、夢と希望を生み出す物理的な形なのです。」

●日時：9/27(金)17:30～9/29(日) 20:00（予定）
　　9/30(月)～10月14(月・祝)時間はウェブサイトにて掲載予定
●場所：六本木ヒルズ ウエストウォーク2階
●参加料：無料

メイメージダンス《沈黙の島―新たなる楽園―》2022年
撮影：リュウ・チェンシャン（劉振祥）

メイメージダンス《沈黙の島―新たなる楽園―》

RAN Picks/RAN Focus

台湾における西洋文化と東洋文化の遭遇を表現した《沈黙の島―新たなる楽園―》(2017年初演)を、六本木アートナイト用に再構成し上演します。本作では、明るさと暗さや猥雑さ、台湾のコスプレ文化と異なる文化が入り混じり、これらが一体となって独特の世界を作り出します。台湾と外来の文化的なシンボルを用いながら、台湾の伝統を再解釈する、カラフルで美しい旅に観客を誘います。

●日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
●場所：六本木ヒルズアリーナ
●参加料：無料

展示イメージ

Hajime Kinoko《Link》

インスタレーション

六本木ヒルズ ヒルズウエストウォークへ続く左右のキャノピーをピンクのロープで繋げ、夜空にインスタレーションを施します。ピンクは「人の温かさ」を意味し、無数のロープの交差で造られるインスタレーションは、都市の人々、文化、経済などが入り混じり、互いに影響し合って、世界中へ広がって行くことを表しています。

●日時：9/27(金)17:30～9/29(日) 20:00（予定）
●場所：六本木ヒルズ 66プラザ
●参加料：無料

撮影：奥山晴日

杉謙太郎《六本木の花》

パフォーマンス

私は今回、あえて雑乱の観衆の中で花を生けたいと思いました。人生の交差点で生まれては消える花の命のように、エネルギーを蓄え全身全霊で輝き出すような花の一瞬を、いけばなの形式にとらわれず表現してみたいと思います。また、近年の仕事である「土を焼く」という行為は、花の源である土へと向かいながら、土の性質を超え、土そのものに花としての面影を見ています。

●日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
●場所：六本木ヒルズ ヒルズカフェ /スペース
●参加料：無料

■ エリア別プログラム紹介｜六本木ヒルズ

《モンスター大戦記ハカイオウ》

平山亮・平山匠《平山プロダクション》

インスタレーション

この度、《平山プロダクション》を発足します。メンバーは画家の亮と、彫刻家の匠です。匠はこれまで、兄との関係性をテーマに、亮の絵の世界を粘土で立体化させ作品を制作しました。亮はその時の経験から、より一層情熱をもって絵を描き続けています。今作は、二人のコミュニケーションの蓄積から、感化されあってできた作品群を展開しています。また、兄弟・障害者健常者・作品の立場など、様々な関係性を揺さぶる試みでもあります。亮は「平山プロダクションをつくりたい」と言い、匠はゆっくりと頷きました。

●日時：9/27(金)17:30〜9/29(日) 20:00（予定）
●場所：六本木ヒルズ ウエストウォーク2階
●参加料：無料

山本マオ

エレクトロニコス・ファンタスティコス！《電磁盆踊り》

パフォーマンス

古い家電が奏でる、どこか懐かしみを感じる祭囃子に誘われ、たどり着いたらそこは盆踊り会場だった———。元来死者を弔う目的の盆踊りを拡張し、火・水・土・風に次ぐ現代に欠かせない存在「電気」への畏敬の念を表す場を《電磁盆踊り》と題して、各地に興します。歴史ある日本の民俗芸能としての盆踊りに現代のテクノロジーが介在し、電気と磁気と人間が相互作用する時空間が、土着的なリズムと艶やかな踊りによって出現します。
出演: 和田永、電磁祭囃子隊 ほか

●日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
●場所：六本木ヒルズアリーナ
●参加料：無料

《ウォーターメロン・ラブ》2017年
ビデオ 10分22秒

ウォーターメロン・シスターズ（西瓜姉妹）《パフォーマンスタイトル未定》

RAN Focus

ユ・チェンタ（余政達）とミン・ウォンによるアーティスト・デュオのウォーターメロン・シスターズ（西瓜姉妹）による《ウォーターメロン・ラブ》（2017年）は、天界から舞い降りてきたクィア姉妹が、愛し合うことをせずに境界を巡った争いをやめない人類に向けて「お互いに抱きしめ合うの」と呼びかける映像を、街なかプログラムの一環としてインスタレーション形式で展示。また六本木ヒルズアリーナでは、新作パフォーマンス作品（タイトル未定）の発表を予定しています。

●日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
●場所：六本木ヒルズアリーナ
●参加料：無料

アオイツキ＆上野雄次《ヒッチハイカー季節》

パフォーマンス

わたし達、季節。あなた達、どなた？時の切符はこの一輪。変わる天気はわたしの転機。やがては去って、また来るよ。あ！風が吹いた！もう行かなきゃ。

●日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
●場所：六本木ヒルズアリーナ
●参加料：無料

悪魔のしるし《やってみよう「搬入プロジェクト」》

パフォーマンス

2014年六本木アートナイトでの伝説の「搬入プロジェクト」からはや10年。劇団「悪魔のしるし」による、ギリギリ入らなそうな物体をわざわざ設計して建物に搬入するというこの作品が、六本木に帰ってきます。主宰・危口統之が2017年に他界したにも関わらず「誰でもやっていい」というポリシーで、様々な第三者が自主的に創作と展開を続けている本企画。今回は「自分も考える」「その場で作る」「みんなが担ぐ」をテーマに、来場のお客さんと一緒に搬入しようと試みる。物体を設計したい人、担ぎたい人、見たい人、集まれ！

●日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
●場所：六本木ヒルズ ノースタワー前
●参加料：無料

■ エリア別プログラム紹介｜六本木ヒルズ

GA•GA•GA ライブパフォーマンス

GA•GA•GA《GA•GA•GA ライブパフォーマンス》

オープンコール・プロジェクト採択作品

70年代ラジオとドットディスプレイを使った、視覚情報・具体音・電磁波音・2人の物理的なコミュニケーションの距離が反映するライブパフォーマンス。「見えているものが全てではない」「混沌はあなたのすぐ横にいつも存在している」という紛れもない事実を、いま一度可視化・可聴化します。
パフォーマンス鑑賞後のあなたは、ここ六本木における「目に見えない混沌」や「環境・他者を含めた外部とのコミュニケーションの有り様」の特異性と多様性を目の当たりにすることになるでしょう。

●日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
●場所：六本木ヒルズアリーナ
●参加料：無料

<RUTeN> FUN FATALE

吉田亜希《KinGyo24》

オープンコール・プロジェクト採択作品

金魚をテーマにした現代サーカスパフォーマンス。六本木では江戸時代後期に湧水が豊富で金魚の養殖が盛んに行われていたという記録を目にした時、少し意外にも思いその頃の人は金魚鉢の中でゆらめく艶やかで美しい金魚の尾ひれを眺める時、どんな思いを重ねていたのか想像せずにはいられませんでした。当たり前も当たり前でなくなった今、金魚鉢から飛び出して六本木の景色の中を漂っていく尾ひれを目にした時、いつもの景色や流れる時間にどんな再発見があるのかこの作品をとおして楽しんでください。

●日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
●場所：六本木ヒルズアリーナ
●参加料：無料

東京シティビュー

東京の中心に位置する、海抜250メートルの屋内展望台。東京タワー、東京スカイツリーなど、首都東京のランドマークはもちろん、天気が良い時は富士山までもが一望でき、「都市という名のアート」を鑑賞することができます。

●時間：10:00～22:00（最終入館 21:30）※9/27(金)、9/28(土)は23:00まで開館
●場所：東京シティビュー（六本木ヒルズ森タワー 52階）
●入館料：一般 2,000 円（平日、窓口）ほか、詳細はウェブサイトにてご確認ください。

■ エリア別プログラム紹介｜森美術館

ルイーズ・ブルジョワ
《ママン》
1999 ／ 2002年
所蔵：森ビル株式会社（東京）

ルイーズ・ブルジョワ展：地獄から帰ってきたところ 言っとくけど、素晴らしかったわ

六本木ヒルズを象徴する巨大な蜘蛛の彫刻《ママン》で知られるアーティスト、国内27年ぶりの大規模個展です。彫刻、絵画、ドローイング、インスタレーションなど約100点を通し、70年にわたるキャリアを紹介します。うち約半数は日本初公開となります。

●日時：2024/9/25(水)～2025/1/19(日) 10:00～22:00（最終入館 21:30）
※9/27(金)、28(土)は23:00まで開館
※火曜日のみ17:00まで（最終入館 16:30）
ただし12/24、12/31は22:00まで
●場所：森美術館（六本木ヒルズ森タワー 53階）
●入館料：［平日］一般2,000円（1,800円）、学生（高校・大学）1,400円（1,300円）、中学生以下無料、シニア（65歳以上）1,700円（1,500円）
［土・日・祝日］一般2,200円（2,000円）、学生（高校・大学）1,500円（1,400円）、中学生以下無料、シニア（65歳以上）1,900円（1,700円）
※( ) はオンライン料金

■ エリア別プログラム紹介｜東京ミッドタウン

《モスモ》（イメージ図）2024年

チェン・プー（陳普）《モスモ》（仮）

RAN Picks/RAN Focus

黒い大きな爬虫類のような生き物の親子が仲睦まじく並んで、ビルを見上げています。台湾出身のチェン・プーは、生物の形態を独自に観察し、想像した姿かたちを手で描き、それらをバーチャルな3Dデータに変換して、アニメーションやARとMR（拡張現実と複合現実）、ときにリアルな彫刻など、さまざまな形へと展開させます。本作は彼のオリジナル・キャラクター「モスモ」の彫刻であり、都市と自然生態系のバランスやつながりを表現しています。お手元のスマートフォンを通して、広場に生い茂るバーチャルな植物を見ることもできます。モスモとのインタラクティブな体験をぜひお楽しみください。

●日時：9/27(金)～9/29(日) 時間はウェブサイトにて掲載予定
●場所：東京ミッドタウン プラザ1階
●参加料：無料

《あおぎつね／ Blue Fox》
イメージ図

久保寛子《あおぎつね／ Blue Fox》

長期展示プログラム

竹林の前に座る青い動物は、田畑の獣害対策やビルの工事現場でよく使われている防風ネットやワイヤーメッシュを使って作られた狐です。港区・六本木エリアには狐坂や狸穴（まみあな）町などの地名に見られるようにキツネや狸にまつわる伝承、さらに狐を祀る稲荷神社が多く存在します。都会の人々が行き交う中に佇む青い狐は、人工的な都市空間で消えゆく野生動物の存在や、動物と人間の関わり合いから生まれた祈りの形を想起させます。

●日時：9/27(金)～10/14(月・祝) 11:00～23:00
●場所：東京ミッドタウン ガレリアB1階
●参加料：無料

ストリートアミュレット《カラス》2024

久保寛子《あおぎつね／ Blue Fox サテライト》

長期展示プログラム

ガレリアB1階に登場する久保寛子の新作《あおぎつね／Blue Fox》とともに、都市の風景と考古学から着想を得た久保の作品群が東京ミッドタウン内に点在します。

●日時：9/27(金)～10/14(月・祝) 11:00～20:00
●場所：東京ミッドタウン ガレリア1階、2階
●参加料：無料

蓮沼執太フィル《ROPPONGI STREET THEATER ＃06 Performance 01》

六本木未来会議アイデア実現プロジェクト #21

東京ミッドタウンの街なかにある建築やアートを舞台に変身させる「ROPPONGI STREET THEATER」。劇場内で見ることが多いパフォーミングアーツが、誰でも楽しむことのできるパブリックスペースに飛び出し、建築・アートとパフォーマー、そして観客をつなぎます。6回目となる今回は、音楽家の蓮沼執太率いる、蓮沼執太フィルとのコラボレーション。パブリックアートと音楽の共鳴をお楽しみください。

●日時：9/27(金) 時間はウェブサイトにて掲載予定
●場所：東京ミッドタウン パブリックスペース
●参加料：無料

蓮沼執太チーム《ROPPONGI STREET THEATER ＃06 Performance 02》

六本木未来会議アイデア実現プロジェクト #21

東京ミッドタウンの街なかにあるパブリックスペースを舞台に、音楽家、蓮沼執太によるバンド編成のパフォーマンスを披露。街に溶け込むパブリックアートに、改めてスポットライトが当たります。

●日時：9/28(土) 時間はウェブサイトにて掲載予定
●場所：東京ミッドタウン パブリックスペース
●参加料：無料

■ エリア別プログラム紹介｜東京ミッドタウン

金子未弥、山口正樹他《ドーナツサンド・ステーションラヂオ》

長期展示プログラム

TOKYO MIDTOWN AWARDのこれまでの受賞者を対象に実施しているアートスタジオ「ソノ アイダ #TOKYO MIDTOWN AWARD」から生まれたラジオ企画が六本木アートナイトコアタイムに特別放送をします。どこから放送されるかはその日のお楽しみ。Instagram @donut_sand_station からも配信予定。

●日時：ラジオ：9/27(金)～9/29(日) 19:00～22:00、展示：9/27(金)～10/14(月・祝) 10:00～20:00
●場所：東京ミッドタウン プラザB1階他
●参加料：無料

昨年の展示の様子

TOKYO MIDTOWN AWARD 2024 FINALIST EXHIBITION

長期展示プログラム

今年で17回目となる「TOKYO MIDTOWN AWARD」は、東京ミッドタウンが"「JAPAN VALUE（新しい日本の価値・感性・才能）」を創造・結集し、世界に発信し続ける街"をコンセプトに、才能あるデザイナーやアーティストとの出会い、応援、コラボレーションを目指して、デザインとアートの2部門で開催するコンペティションです。TOKYO MIDTOWN AWARD 2024 ファイナリスト展では、デザインコンペ、アートコンペのファイナリスト作品を展示します。

●日時：9/27(金)～10/9(水) 6:30～0:30
●場所：東京ミッドタウン プラザB1階
●参加料：無料
※10/10(木)TOKYO MIDTOWN AWARD 2024 授賞式
※10/10(木)～11/10(日)＜受賞・入選作品展示＞TOKYO MIDTOWN AWARD 2024 EXHIBITION

《Fossils of shelves》

髙橋美乃里《everyday tactics 2024》

多摩美術大学 TUB 連携プログラム　長期展示プログラム

「棚に物を配置する」というありふれた日常の反転を試みる。
高さの変えられる利便性のある棚に斜めに板をかけることで、棚ではない何かにする。通常の棚の使い方を拒み、物の利便性や意味を失って現れる、「面白い形」を探る。
配置されるのは「身の回りのものが化石として未来に出土したらどうなるか」という試みで作られた立体。風化したり、雨に打たれたりして形を変えて、また時間の経過によって人の知識や考え方が変化することによって、「面白い形」が生まれる。

●日時：9/27(金)～10/6(日) 11:00 ～ 20:00
●場所：東京ミッドタウン ガレリア2階
●参加料：無料

<Don't you know?>福井に世界が認めた3人がいるのを知っていますか？

同時開催プログラム

先人から受け継いだ技を守りつつ、新しい伝統工芸の世界を切り開いていく挑戦者たち。
今回のイベントでは黒崎打刃物(包丁)、常山酒造合資会社(日本酒)、漆琳堂(漆器)3社のラインナップと、海外で活躍するインテリアスタイリスト"作原文子氏"を迎え、ジャンルの異なる世界感が融合した空間をご紹介いたします。

●日時：9/25(水)～10/1(火) 11:00～20:00
●場所：東京ミッドタウン ガレリア1階 ISETAN SALONE
●参加料：無料

TOKYO MIDTOWN DESIGN HUB

東京ミッドタウン・デザインハブ第110回企画展「ROOTS OF FUTURE　過去を探って、未来を見つける」

同時開催プログラム

1950年代から2020年代までの日本のデザインを多数展示。時代やデザインの領域を超えて、新たな視点で読み解くことで、未来を成すデザインの源流を探ります。

●日時：9/20(金)～10/25(金) 11:00～19:00
※9/27(金)～9/29(日)は20:00まで開館延長
※会期中無休
●場所：東京ミッドタウン ミッドタウン・タワー 5階 東京ミッドタウン・デザインハブ
●入場料：無料

■ エリア別プログラム紹介｜サントリー美術館

没後300年記念　英一蝶　―風流才子、浮き世を写す―

英一蝶（はなぶさ いっちょう・1652〜1724）は元禄年間（1688〜1704）前後に、江戸を中心に活躍した絵師です。はじめは狩野探幽の弟・安信のもとでアカデミックな教育を受けますが、菱川師宣や岩佐又兵衛らに触発され、市井の人々を活写した独自の風俗画を生み出しました。また、元禄11年（1698）、数え47歳で三宅島へ流罪になっており、島で描かれた作品は〈島一蝶〉と呼ばれ、とくに高く評価されています。一蝶の没後300年を記念する本展では、代表作を通して、その画業と魅力あふれる人物像に迫ります。

●日時：9/18(水)〜11/10(日) 10:00〜18:00（金曜は10:00〜20:00）
　※9/27(金)、28(土)は22:00まで開館、11/9(土)は20:00まで開館
　※11/5(火)は18:00まで開館
　※いずれも最終入館は閉館30分前
　※休館日：毎週火曜日
●場所：サントリー美術館 展示室
●入館料：一般1,700円、大学・高校生 1,000円、中学生以下無料

神田松麻呂　講談「柳沢昇進録 浅妻船」

描いた絵がきっかけで三宅島に流される多賀朝湖（のちの英一蝶）と、江戸で待つ俳諧師・宝井其角の友情談。「没後300年記念　英一蝶」展にちなみ、迫力たっぷりの講談をお楽しみください。

●日時：9/28(土) 17:00〜17:45、19:00〜19:45
●場所：サントリー美術館 6階ホール
●参加料：1,000円（別途要入館料）
●定員：80名（予約制・先着順）

©DNP Dai Nippon Printing Co., Ltd. [2021], with the courtesy of the Bibliotheque nationale de France.

デジタルコンテンツで楽しむ美術館鑑賞体験

より展覧会鑑賞を楽しむためのデジタルコンテンツ「みどころキューブ®」を体験することができます。体験をさらに深める事前申込制のワークショップも開催予定です。「みどころキューブ」とは、ミュージアムのコレクションや解説情報をキューブ上のインタフェースを用い、多様な視点から紹介できる新しい鑑賞システムです。

●日時：9/28(土) 13:00〜20:00、9/29(日) 13:00〜18:00
　※ワークショップ開催中は参加者のみ入場可能です
●場所：サントリー美術館 1階レクチャールーム

■ エリア別プログラム紹介｜21_21 DESIGN SIGHT

展覧会メインビジュアル

ゴミうんち展

本展では、身の回りから宇宙までを見渡し、さまざまな「ゴミうんち」を扱います。そして、ゴミうんちを含む世界の循環を「poopoop」と捉えます。これまで目を背けてきた存在にもう一度向き合うと、社会問題だけではないさまざまな側面が見えてきました。決して止まることのないこの世界。欠けていたパーツがピタリとはまると、きっと新たなループが巡りはじめます。

●日時：2024/9/27(金)〜2025/2/16(日) 10:00〜19:00（最終入場18:30）
　※9/27(金)、9/28(土)は22:00まで開館延長（最終入館 21:30）
　※休館日：毎週火曜日（2/11は開館）、年末年始（12/27〜1/3）
●場所：21_21 DESIGN SIGHTギャラリー 1＆2
●入館料：一般1,400円、大学生800円、高校生500円、中学生以下無料

■ エリア別プログラム紹介｜21_21 DESIGN SIGHT

Photo by Michele De Lucchi

ROPPONGI ROKKEN: SEI CASE

先鋭的な建築家として世界で活躍してきたミケーレ・デ・ルッキが、建築における「中間の空間」という概念を探求する彫刻作品シリーズより、新作として6つの家を公開します。この展覧会は、異なる文化を持ちながら、共通点も多いイタリアと日本の架け橋となるものとして、六本木の21_21 DESIGN SIGHTのためにデ・ルッキにより企画されました。

●日時：9/20(金)～10/14(月・祝) 10:00～19:00
※9/27(金)、9/28(土)は22:00まで開館延長
※休館日：毎週火曜日
●場所：21_21 DESIGN SIGHTギャラリー 3
●入館料：無料

■ エリア別プログラム紹介｜国立新美術館

小寺創太《フィラー》

＜いる派＞を名乗り自らの身体を用いたユニークな作品を発表してきた小寺創太が、新作を発表します。本作は国立新美術館内だけでなく六本木の街中にも展開され、鑑賞者にある仕掛けを目撃するように誘います。出版やデザインの分野でレイアウトを決める際にテキスト部分を仮に埋めておくために用いられる「フィラーテキスト」への着目から、「いる」ことと「埋める」こととの境界線を探るパフォーマンス／インスタレーション作品です。

●日時：9/27(金) ～9/29(日) 10:00～20:00
※9/29(日) は18:00まで
●場所：国立新美術館、六本木内各所
●観覧料：無料

ジェニファー・ウェン・マ
《無題―インクのリズム》（イメージ図）2022年

ジェニファー・ウェン・マ《無題―インクのリズム》

RAN Picks　長期展示プログラム

本作は、黒を基調に彩られた、高さ2mを超える巨大な紙の彫刻です。波打つ形状が独特なリズムを作り出すだけではなく、作品の色彩が国立新美術館のガラス越しに見える木々と呼応し、床にも大きな作品が写りこむことで、展示会場に溶け込みつつも強い存在感を放ちます。中国の伝統的な山水画の要素と、大きなスケールや反復などのミニマリズムの形式が組み合わさり、伝統と現代、弱さと強さなど、相反するものが表現されています。

●日時：9/25(水)～10/7(月) 10:00～18:00
※9/27(金)、9/28(土)、10/4(金)、10/5(土)は20:00まで
※休館日：毎週火曜日
●場所：国立新美術館 1階アトリウム
●観覧料：無料

©Keiichi Tanaami / Courtesy of NANZUKA

田名網敬一　記憶の冒険

国際的に高い評価を得る日本人アーティスト、田名網敬一(1936 -) の初となる大規模回顧展です。田名網は幼少期に経験した戦争の記憶とその後に触れたアメリカ大衆文化からの影響が色濃く反映された、色彩鮮やかな作品で知られています。本展は当時の資料を含めて田名網が手掛けた膨大な作品を紹介することで、これまで包括的に捉えられることがなかった、その60年以上におよぶ活動を「記憶」というテーマのもとに改めて紐解こうとするものです。

●日時：8/7(水)～11/11(月) 10:00～18:00（最終入場17:30）
※毎週金・土曜日は10:00～20:00（最終入場19:30）
※休館日：毎週火曜日
●場所：国立新美術館 企画展示室1E
●観覧料：一般 2,000円、大学生 1,400円、高校生 1,000円

■ エリア別プログラム紹介｜国立新美術館

イラストレーション：MARU AKARI
（東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻）

インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル 2024（ICAF2024）

同時開催プログラム

学生アニメーションの最前線、インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル（ICAF）。22回目を迎える今回、全国各地から33校のアニメーション教育機関が参加し、200本を超える学生アニメーション作品を一挙上映します。今年のテーマは“Fly into Youth Power”。若いクリエイターたちの荒削りな創作のエネルギーに飛び込み、その最前線をご堪能ください！
特設ウェブサイト https://icaf.info

●日時：9/26(木)～9/29(日)10:00～18:00（最終入場17:30）
※9/27(金)、9/28(土)は20:00まで（最終入場19:30）
※特設ウェブサイトは9/9(月)～9/29(日)配信予定
●場所：国立新美術館 3階講堂、研修室
●観覧料：無料

＜公募展＞第87回 新制作展

同時開催プログラム

●日時：9/18(水)～9/30(月) 10:00～18:00（最終入場17:30）
※9/20(金)、9/27(金)は20:00まで（最終入場19:30）
※最終日9/30(月)は14:00まで（最終入場13:30）
※休館日：毎週火曜日
●場所：国立新美術館 公募展示室1A,1B,2A,2B,3A,3B、野外展示場A,B
●観覧料：一般：800円、大学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方及び付添者1名まで無料

＜公募展＞第79回 行動展

同時開催プログラム

●日時：9/18(水)～9/30(月) 10:00～18:00（最終入場17:30）
※9/20(金)、9/27(金)は20:00まで（最終入場19:30）
※最終日9/30(月)は14:00まで（最終入場13:30）
※休館日：毎週火曜日
●場所：国立新美術館 公募展示室1C,1D,2C,2D、野外展示場C,D
●観覧料：一般：800円、大学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方及び付添者2名まで無料

■ エリア別プログラム紹介｜六本木交差点/六本木各所エリア

《ウォーターメロン・ラブ》2017年
ビデオ 10分22秒

ウォーターメロン・シスターズ（西瓜姉妹）《ウォーターメロン・ラブ》

RAN Focus

ユ・チェンタ（余政達）とミン・ウォンによるアーティスト・デュオのウォーターメロン・シスターズ（西瓜姉妹）による《ウォーターメロン・ラブ》（2017年）は、天界から舞い降りてきたクィア姉妹が、愛し合うことをせずに境界を巡った争いをやめない人類に向けて「お互いに抱きしめ合うの」と呼びかける映像を、街なかプログラムの一環としてインスタレーション形式で展示。また六本木ヒルズアリーナでは、新作パフォーマンス作品（タイトル未定）の発表を予定しています。

●日時：9/27(金) 17:30～23:00、9/28(土) 16:00～23:00、9/29(日) 16:00～20:00（予定）
●場所：イグノポール1階
●参加料：無料

■ エリア別プログラム紹介｜六本木交差点/六本木各所エリア

《日常戦争》(ビデオスティル)
2024年
シングル・チャンネル・ビデオ
10分33秒

ユェン・グァンミン(袁廣鳴)《日常戦争》

RAN Focus

台湾の現代美術界を代表するビデオ・アーティストのユェン・グァンミン(袁廣鳴)が、本年のベネチア・ビエンナーレ台湾館で発表し注目を集めた映像作品《日常戦争》(2024年)をアジア初公開します。映像では、なんの変哲もない若者の一人暮らしの部屋で、目には見えませんが窓ガラスを割って何かが侵入し、爆発が起こり、炎が現れます。部屋全体が攻撃・破壊されて、戦争が起こり廃墟と化していくようにも見えます。本作品は、人類の生活を脅かすさまざまな種類の「戦争的」な物事が「日常」となっている今日がテーマとなっています。

●日時：9/27(金) 17:30〜23:00、9/28(土) 16:00〜23:00、9/29(日) 16:00〜20:00(予定)
●場所：ジオットハウス1階
●参加料：無料

画像提供：川崎市岡本太郎美術館

三塚新司《Slapstick》

オープンコール・プロジェクト採択作品

誰かに踏まれるのを待つ、巨大なバナナの皮。作品は喜劇の系譜からいくつかの比喩を持たせています。まず、滑って転ぶ失敗の象徴として、次に、バナナの歴史とグローバリゼーションの繋がりについて、そして、バナナプランテーションを事業化できる地域が広がってゆく程の温暖化の中でも、誰もが利益を最大化しなければならない。という巨大な喜劇の象徴として、、誰もが「疑問」を持つことを忘れつつあり、むしろ「疑問」は足枷となるだろう現在、私は、もはや喜劇でなければ「疑問」は存続できないのではないかと疑っているのです。

●日時：9/27(金) 17:30〜23:00、9/28(土) 16:00〜23:00、9/29(日) 16:00〜20:00(予定)
●場所：ラピロス六本木
●参加料：無料

■ エリア別プログラム紹介｜六本木商店街

六本木商店街エリアでは、街路灯展覧会、仮囲いアートなどを展開予定です。
詳細はウェブサイトにて掲載予定。

■ インクルーシブ・アート・プログラム

写真：佐藤駿

六本木アートナイトをさまざまな人たちと巡るツアーを開催します。
参加者同士で対話をしながら、作品を楽しみましょう。
※障がいの有無や種別に関わらずご参加いただけます。

企画協力：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

●日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
●場所：六本木アートナイト会場各所／オンライン
●参加料：無料／要事前申し込み　※申し込み方法等の詳細は、公式ウェブサイトにて告知します。
●定員：各回10名程度

■ 外国語ガイドツアー

写真：越間有紀子

英語ガイドツアー：いろんな六本木と対話するツアー
English Guided Tour: In Dialogue with Roppongi

英語を使って作品をめぐるツアーを実施します。六本木の街を歩きながら、街の中にある作品を鑑賞するとともに、作品について語り合います。

企画協力：田中・ジョン・直人

●日時：①9/27(金) 17:00〜18:30 ②9/28(土) 20:00〜21:30 ③9/29(日) 14:00〜15:30
●場所：六本木アートナイト会場各所
●参加料：無料／要事前申し込み ※申し込み方法等の詳細は、公式ウェブサイトにて告知します。
●定員：各回15名程度

■ 六本木アートナイト2024 開催概要

正　式　名　称： 六本木アートナイト2024

日　　時： 2024（令和6）年9月27日(金)～29日(日)
コアタイム：9月27日（金）17:30～23:00、9月28日（土）16:00～23:00、9月29日（日）16:00～20:00
※コアタイムとは、メインとなるインスタレーションやイベントが集積する時間帯です。
※プログラムによって展示時間が異なります。
※一部作品は長期展示あり（ ～10月14日（月・祝））

開　催　場　所： 六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、
六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース
公式YouTubeチャンネル【RAN TV】：https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight

入場料／視聴料： 無料(但し、一部のプログラム及び美術館企画展は有料)

お　問　合　せ： 六本木アートナイト実行委員会　ハローダイヤル：050-5541-8600（9:00～20:00）

主　　催： 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、港区、
六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、
森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合(五十音順)】

ウェブサイト： https://www.roppongiartnight.com/
Facebook： https://www.facebook.com/RoppongiArtNight/
X： https://x.com/r_artnight
Instagram： https://www.instagram.com/roppongi_art_night_official/
YouTube： https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight
TikTok： https://www.tiktok.com/@roppongiartnight

※実施内容等につきましては、諸般の事情により予告なく変更または中止する場合がございます。変更が生じる場合は、公式ウェブサイトや公式SNS等で改めてお知らせいたします。
※最新情報は順次、公式ウェブサイトや公式SNSにて発表してまいりますので、是非ご注目ください。

＜報道関係のお問い合わせ＞
六本木アートナイト広報プロモーション事務局（株式会社ワンオー内）
担当：岡安・小島・入星　TEL：03-5774-1420 FAX：03-5774-1409
Email：RAN@one-o.com
広報協力：liil inc. 篠原礼子 Email：reiko@liil.com　Cel：090-3535-9012

● 広報用画像はこちらからダウンロードいただけます
https://bit.ly/3xRzuTw